


# 怪奇幻想の翻訳家、平井呈一氏の書を発見！

同志社大学提供  
作成日 2016年2月14日  
更新日

	<b>研究者氏名</b> しもくす まさや 下楠 昌哉	<b>所属機関</b> 同志社大学文学部・ 文学研究科	<b>関連キーワード(複数可)</b> 英文学、幻想文学、文化交流
	<b>主な研究テーマ</b> ・文学を中心とした西欧と日本の文化交流 ・ジェイムズ・ジョイスを中心としたアイルランド文学 ・日本語による幻想文学研究の方法論	<b>主な採択課題</b> ・基盤研究(C)平成25～29年度(配分総額:2,730千円) 課題名「西欧文化の日本での受容・変容・再発信の過程—文学における幻想性・怪奇性を中心に」 ・基盤研究(C)平成21～23年度(配分総額:2,990千円) 課題名「民話の芸術作品への変容とグローバル化」	

## ① 科研費による研究成果

西洋由来の想像力が日本でどのように受容され、変容し、世界に向けて再発信をされてゆくかの過程を、文学を中心としつつポップカルチャーまで視野に入れて研究しています。ここ数年は、明治開国後の西洋文化流入まで日本には存在しなかった文化的形象の「吸血鬼」に着目しています。その成果は、海外の出版社からの書籍に収録されて複数出版されています。例えば次の論文は、日本における「吸血鬼」の受容から再発信の歴史に関して英語圏に紹介した、この分野の基本的論考となる論文です。

Masaya Shimokusu, "A Cultural Dynasty of Beautiful Vampires: Japan's Acceptance, Modifications, and Adaptations of Vampires," *The Universal Vampire: Origins and Evolution of a Legend*, ed. Barbara Brodman and James E. Doan, Madison: Fairleigh Dickinson UP, 2013, 179-94.

また、次の論文では、吸血鬼に限らず、各種の幻想怪奇文学を第二次世界大戦後に日本に紹介した草分けとなる翻訳者、平井呈一の功績を、英語圏に初めて学術論文の形で紹介しました。

Masaya Shimokusu, "Hirai Teiichi, the Japanese Translator of *Dracula* and Literary Shape-shifter," *Multiple Translation Communities in Contemporary Japan*, ed. Beverley Curran, et al., New York: Routledge, 2015, 169-85.

この分野は日本でも先行研究が少なく、以下の論考では、歌人で小説家の須永朝彦の作品が日本における吸血鬼イメージの確立に大きく寄与したことを論じています。この論考を含んだ書籍は、全体を共同で責任編集しています。

下楠昌哉「美しき吸血鬼—須永朝彦による西洋由来の吸血鬼の美的結晶化」、『幻想と怪奇の英文学』、東雅夫、下楠昌哉責任編集、横浜、春風社、2014年、54-79頁。

## ② 当初予想していなかった意外な展開



怪奇幻想文学翻訳の草分け、平井呈一氏の足跡を追って新潟県小千谷市を訪れたところ、教え子の故人の方の元に残された書に遭遇。ご遺族のご希望にこたえる形で平井

氏の書や風炉先屏風など四点が、神奈川近代文学館2015年10月2日に収蔵される運びとなりました。写真は平井書の「夢」(下楠撮影)。文学者平井の文筆活動や交友関係についての今後の研究に寄与すると同時に、貴重な資料の散逸を防ぐことができました。(寄贈者・研究協力者についての詳細は別途報告書に記載予定です。)

## ③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

吸血鬼だけでなく、アイルランドの妖精を活用した日本のアニメの研究などを通して「西洋に由来する文化的想像力を受け継ぐ日本発のソフトの特性のさらなる検証」を行い、かつその成果を海外向けに積極的に発信してゆくことで、我が国のコンテンツ産業に対しての注目を喚起し、様々な文化的・学術的交流に発展してゆくことが期待できます。